



## 『感謝する』という思いを大切に作る学期に

3学期が始まったと思っていたら、あっという間に1月も終わりです。今年は観測史上稀にみる暖冬で、白銀の銀世界となることがここまでほとんどありません。普段の生活にはよいのですが、子供たちにとっては雪遊びのできない物足りない冬となっているようです。まもなく立春ということで、このまま春になっていくのでしょうか。



インフルエンザも爆発的な広がりはないものの、順繰りに感染し、お休みをしている児童も見られます。感染症の予防にも引き続き注意しているところです。



3学期の始業式で、子供たちに「感謝の心」について話をしました。11月の「感謝の集い」の際には、収穫した作物やその栽培を教えていただいた地域の先生、また日頃から自分たちを守り、成長させてくださっている方々へ感謝の気持ちを表しました。3学期には、その気持ちをさらに広げ、卒業していく6年生や、ともに学校生活を送っている西郷小の友達同士や先生方へ、更には身の回りのもの等に対しても「感謝の心」を広げてほしいと伝えました。「人やものに感謝の気持ちを伝えよう」、「ありがとうという感謝の温かい気持ちを持って生活しよう」と話しました。

また、先日には、5年生から「6年生を送る会」についての提案があり、話し合いがありました。この1年間、6年生は様々な場面で学校生活をリードしてくれました。5年生以下の下級生にとって、きっと憧れのモデルだったことでしょう。そこには、多くの感謝の気持ちがあるはずで、それを伝える素敵な会としてくれることでしょう。

当たり前のことや小さなことでも、具体的な言葉で、その人へ「ありがとう」の気持ちを確実に伝えることが、その行為をおこなった人(子供)にとって、何よりの励ましになります。その励ましの積み重ねが、自己有用感や自尊感情を高め、更なる価値ある行動につながると言われています。

素直で心優しい西郷小の子供たちに、更なる優しさが溢れるように、今学期は「感謝(ありがとう)」をキーワードに、子供たちと学校生活を送っていきたいと考えています。

